

乳がん術後地域連携クリティカルパスの内容理解のための情報支援

吉澤 咲子

がん診療連携拠点病院（以下「がん拠点病院」）が中心となり、地域医療機関との医療連携のツールとして、がん地域連携クリティカルパス（以下「地域連携パス」）が運用されている。しかし患者を対象とする乳がんの地域連携パスには、治療や生活についての情報や情報源が掲載されているものは少なく、患者は自分で適切な情報を収集する必要がある。このため、地域連携パスを利用して患者の情動的サポートができれば、地域連携パスは患者に不可欠なものとなり、患者は情報を得て、医療に積極的に参加ができるようになると考えられる。地域連携パスの構成を利用して信頼性のある情報源を提示することができれば、患者を情報により支えることが可能になると考えられる。

本研究は、患者用の地域連携パスを利用して術後の乳がん患者の情動的サポートをすることを目的として、信頼性のある情報源を提示する方法を提案する。

はじめにがん拠点病院が作成し運用している地域連携パスを調査し、その種類と提供されている情報を比較し、問題点を明らかにした。また、患者の理解に役立つ情報を提供している情報源を調査し、信頼性のある情報源を収集した。さらに、地域連携パスの構成を利用して情報提示のポイントを設けて、信頼性のある情報源を関連付けることにより、患者の情動的サポートを可能にする情報提示の方法を提案した。

本研究では、患者用の乳がん術後地域連携パスの構成をもとに情報源を提示するため、乳がん患者は自分の地域連携パスを見て疑問に感じたことを調べるための情報源の入手が可能になった。また、患者の情報要求に対して情報そのものを提供するのではなく、情報の所在を提供することにした。さらに、所在についても、情報の URL を示すのではなく、情報源の目次の URL と情報が得られる目次項目を提示することにした。目次では情報の所在を明記できない場合には、患者が自分で検索することにより情報を得られるように検索方法を提示することにした。このため、情報が更新された場合でも、目次の URL、目次項目または検索方法を手がかりとして、常に最新の情報にアクセス可能になったと考える。

本研究では、情動的サポートに着目し、患者用の地域連携パスの構成を利用して術後の乳がん患者の情報ニーズを満たす情報支援の方法を提案した。患者は、患者自身の地域連携パスを利用して生じた情報ニーズを、本研究の情報支援方法を利用することにより、満たすことが可能になったと考える。さらに、情報支援ツールを利用することにより、潜在的な情報ニーズを満たすことも可能となるため、医療に積極的に参加できるようになると期待できる。また、新たな情報を手がかりに医療者とのコミュニケーションの状態が改善するという間接的な効果が期待できる。

（指導教員 岩澤まり子）